

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 21 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和 3 年 1 月 29 日（金）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出席者氏名	出席委員：梅村光久委員、岡山慶子委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、辻岡宜子委員、西川明樹委員、松浦信男委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員  欠席委員：西村訓弘委員、平岡直人委員、三井高輝委員  事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路企画振興部経営企画課政策担当主幹、小川企画振興部経営企画課政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

## 第21回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和3年1月29日(金) 午後3時00分～午後5時00分
  2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第3・4委員会室
  3. 出席者 梅村光久委員、岡山慶子委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、辻岡宜子委員、西川明樹委員、松浦信男委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 西村訓弘委員、平岡直人委員、三井高輝委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路企画振興部経営企画課政策担当主幹、小川企画振興部経営企画課政策経営係長

### 1 市長あいさつ

あらためまして皆さんこんにちは。今年もまたどうぞよろしくお願ひいたします。今日の議題として、新しい総合計画がいよいよ出来上がってきましたので、それに対してみなさま方からご意見をいただきたいと考えています。

また三井嬉子委員から三井高輝委員へ委員が変更になりました。2022年は三井高利さんが生誕400年を迎える年になります。またその数年後に三井グループ創業から350年という年でもあります。例えば松浦武四郎さんは生誕200年で様々な発信を行いました。そういう意味では三井高利さんも発信をしていければと考えています。本日はご欠席ですが、来ていただいた時に正式に委嘱状をお渡しさせていただきたいと思っています。

昨年1年を振り返ってみますとコロナで始まりコロナで終わったような1年でした。そんな中でも松阪市ではいくつか新しいことを始めさせていただいています。例えば“書かない窓口”についてはおかげさまで市民のみなさまには非常に好評で、特に戸籍住民課では各種証明等を出していますが、コンシェルジュがおり、聞き取りと本人確認ができればすぐ書類が出てくる。また、今年はキャッシュレス決済を始め、日本で流通しているもののほとんどに対応し、それでお支払いいただけます。こういったサービスを始めています。

またコロナに対応していくために、トイレなどの手洗いの場所をほぼ自動水栓に変えさせていただいております。来月2月にはPayPayキャンペーンとしてキャッシュレス化を進めている。いままでキャッシュレスに程遠かった、高齢者のみなさま等がこの機会に利用していただくようになれば、使うと非常に便利でかつ接触を減らすことにもつながると考えています。

好むと好まざるにかかわらず時代は変化していくので、それに対応できるように我々も少し背中を押させていただくような取り組みを行っていきます。

令和3年度もコロナの対策が1番にくると思う。例えばワクチン接種についても始まってまいります。大事業にはなるが市民の皆さんにはきちんとワクチン接種できるような体制を整えていきたいと考えています。

委員のみなさまの様々な意見をいただきながら、より住みやすいまちになるように取り組んで行きたいと思っておりますので、今年もどうぞ協力をよろしくお願いいたします。

※松阪市政推進会議規則第5条により、会長が会議の進行を行う。

## ○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

みなさんあらためましてこんにちは。今年初めての会議ということでみなさまよろしく申し上げます。本日が通算21回目ということで、これまでずいぶんいろんなご意見をいただいで積み上げてきましたが、今日も闊達なご意見をよろしくお願いいたします。

まず、会議を始めます前に公開・非公開を決めたいと思います。本日の議題は「総合計画」ですが、前回と同様に公開ということによろしいですか。

(異議なし)

会長)

ありがとうございます。では、本日も公開で進めてまいります。

## 2 協議事項

### 1) 松阪市総合計画「明るいわ! 楽しいわ! 松阪やわ!」(R2-R5)について

会長)

では協議事項に入ります。『松阪市総合計画「明るいわ! 楽しいわ! 松阪やわ!」』について、まず市長からご説明をお願いします。

(市長より資料の説明)

資料 松阪市総合計画「明るいわ! 楽しいわ! 松阪やわ!」(R2-R5)

委員)

施策の内容がウイズコロナとして考えられているという説明がありすっきりした。また至るところに新型コロナ対応が入っているところが印象的。とは言え状況が刻々と変わるので基本計画に固執していないところにも安心した。柔軟な対応は本当に大切なこと。新型コロナ予防接種についても、これまでコロナ対策は各都道府県別の評価がなされてい

る。厚生労働省から各自治体に対して予防接種業務の内容を示し、おそらくもう数週間すると物が各自治体に配布されてくる。そうすると他自治体と比べて準備が進んでいるのかというのが極めてダイレクトな意見として市政に跳ね返ってくると思う。その時にわがまち松阪市はスピーディで細かな対応をしているということが市民に見えてくる。学校関係で言うと、市内の保育園、小中学校の施設改修の際も冷暖房を換気付きにしたり、子育ての際も、何かあった場合は他都道府県に住んでいる祖父母の手助けができなくなり孤立化してしまうといったことに、これまでの発想とは違った形で一步二歩先のことを考えていただくと良いと思う。企業誘致にしても、若者のUターンにしても、エイベックスが山梨に移るといった報道もあり、松阪にも受け入れ余地があるのではないかと考えます。まさしくピンチをチャンスに変えるということを実現化できるのではないのでしょうか。

委員)

令和3年4月から始まる住民自治協議会について。令和3年度の小学校入学者数は減ってきている報道もあった。そこでこの住民自治協議会ができるにあたって、地域の小中学校にお願いして子どもで作る住民自治協議会という組織を作りたいと動いている。大人だけの考えではなく小さいときから自分の住んでいるところが大好きだという気持ちを育み、意見を言う場を作っていきたいとして、関係するみなさまのご協力をいただきながら進めている。

社会教育についても、高齢者の方が公民館で学んでいただいています。4月から公民館が違う形になる話もある。その辺も高齢者の方とご相談しながら、そうした方々とも住民自治協議会を作っていく。私たちのように行政との間を取り持つものの役割も果たしていかなければと思ひ、5年先10年先を見据えた計画を立てているところ。

子どもたちについては、小学生が15人、中学生が20人近く手を挙げてくれた。とにかく地域も頑張っているのでも行政もそちらの方にも目を向けて欲しい。

市長)

4月から住民自治協議会が発足する。H28 住民協議会条例を改正から5年間議論し、いよいよこの4月から自治組織を変える。ほぼ同じ範囲であった自治連合会と住民協議会と公民館の活動、これらをひとまとめにしていきたい。当初たくさんのお声をお聞きした中で、1つは中山間地域では役員のなり手がなくなることがある、また、これから超高齢社会を迎えるにあたって重層的支援が必要。これは少し前まで断らない窓口という言い方をしていたが、福祉のニーズが増えてくる。

今地域には民生委員さんいらっしゃいますが、ほとんどは1人暮らしの高齢者対応で精一杯。なかなかほかのところに手が届いていないというのが実態です。例えば障がいを持つお子さんをお持ちの方は直接市役所の障がい福祉課とやり取りをしており、地域の人たちはほとんど分かっていない。

もう少し地域と行政が手を組んで住みよい地域づくりをしていくために、実質的に動いていける形として、新しい住民自治協議会では、2つの部会「自治会部会」「公民館部会」を作ることによって進んでおります。まだ多くの課題があるが、みなさんと情報共有しながら各地域でやっていきたいと考えていますので、ぜひご協力をいただきたい。

委員)

前回小学生以上の子育て相談窓口を子育て支援課に急遽作ってもらった。そのあと、相談件数が少ないと聞いた。そんなはずはないと思い調べたところ、深刻な悩みはなかなか行政に相談しにくいといった意見など、細かい理由が浮き彫りになった。三重県教育委員会が「一人で悩まず相談しよう」というシートを保護者に配っているが、ここで初めて相談窓口のことを知る人もいる。一口に相談窓口と言っても、発達、心、子育て全般など、何をどう相談していいかわからない方もいる。相談窓口がはっきりしていない。調べたところ伊勢の代々木高校がフリースクールをしており、松阪からも入る方がいる。保護者も情報が錯綜して困っている現状がある。心の問題はこれから大切。子育て世代、親も心身ともに健康であることが大切であるのに、悩む親は松阪だけでなく全国的に増えている。P64の“10年後のめざす姿”で「中山間地域への子育て世代の新規転入」というものがある。松阪は自然や人や資源が豊かな環境があるなか、全国的に不登校や虐待に悩む方、心の問題を持つ方々が自然の中で分かち合えるような、大きな意味でのフリースクールを作ったら、全国からそうした方々が来られるのではないかと。例えば農福連携として農業に携わるなど、自然と人とが交わるようなビジョンがあれば、それぞれがうまくまわるのではないかと。地域の今後の姿ではないかと。心を本当に大切に思う松阪というので全国から関心を寄せていただけるのではないかと。

委員)

各都道府県に私学審議会があり、先日そこで向陽台総合学院が春日町に設置認可された。中学生が高校へ上がる時に、心の悩みや、対人関係で全日制高校はなかなか行きにくいという時、これまではネット高校や自宅から遠い通信制の高校に通わざるを得なかったお子さんがこの地域にもみえる。松阪市にこうした通いや教育機関ができてきていることは、市内の中学校にも周知されている。まだまだ不足しているかもしれないが、不登校になると学校に通うにも電車で40～50分かかるとご両親も本当に大変。家から近いところに対応できる学校があることは安心ではないかと。

市長)

その学校法人向陽台高校と松阪市はこのたび連携協定を結んだ。松阪市にも不登校の子は居る。総論としていじめ件数は減っているが不登校が増えている。これは由々しき話でなんとかしたい。向陽台高校は早稲田の系列で不登校の子についての多くのノウハウを持っている。いろんな相談などができ、4月から入学ができる。フリースクール的なところ

では飯南高校がある。全国から入学してもらうことができ、県内中学校どこからで入学できる。自然一杯のところで学習したい子たちを受け入れようというもの。受け入れ家庭も2家族手を挙げていただいております準備はできている。しかしものはあっても知らないのでは意味がない。いかに知ってもらうかだが、なかなか全国には伝わっておらず、行政はやはり発信下手ということも言える。フリースクール的なところはさらに考えていきたい。

委員)

私も知らないことがありました。ありがとうございます。

委員)

SDGsのことが総合計画に触れてあり良かった。SDGsの理念は誰ひとり取り残さない、人を大切にすること。数値で計りにくいものが大切な時代なのではないか。営利と非営利がバランスをとることでもうまくいくのではないかと思っている。非営利の部分を見ていくのがNPOであると思っているが、非営利は数値で計りにくい。P135 超高齢社会対策検討委員会からの3本の柱の「生きがい」「シビックプライド」「チャレンジ」や、暮らし続けたいかどうか、働き甲斐、幸福感などは計りづらい。しかし、ここを大切にしないと移住が増えなかったり、離職が減らなかったりする。PDCAをまわすとき、重要度や緊急度から計ると心のことは置き去りになりがち。暮らしやすさや働き甲斐が後回しになる、データになると見えにくい、隠れた大事なところと思う。そういう数値で見えにくいところ、計りにくいところを見ようとする市役所や市職員であってほしい。PDCAの評価基準もそうあれば、より良いまちになると思う。

市長)

おっしゃるようにここには指標を入れている。例えばP62 住民自治協議会の認知度、地域づくり活動の参加率など。それぞれの目標は計れる目標にしようと考え設定した。数値目標は前回にもあったが計れない目標もあった。例えば自殺者数を減らす目標、しかしそれは社会情勢によって大きく変わるもので、行政の努力には限界がある。水産業の振興のアサリの漁獲量の目標についてもずっと評価が悪かったが、これも行政の努力に対して気候の影響が大きすぎるため。そのため今回多く取り入れたのが、年1回市民3000人アンケートを実施していく中で、暮らしやすさなどを計り、それを数値目標とすること。それを計らないと施策が本当に良かったのか悪かったのか分からない。それによりチェックしている。まだまだ不足するところもあるが、特に計りにくいところ「住んで良かった」「心のこと」などをある程度把握していければと思う。もう一つ、福祉は1人が不満足ならその人は不幸。数の話ではなく一人一人に向き合うのが福祉。どれだけの人にそのように対応していけるのかが大事であると考えている。

委員)

数値で計りにくいものをどう取り扱うかということについて。ワークショップの時、言葉をどう解釈しているのかを深くほどいていくと分かることがある、という活動をした。

「持続可能」という言葉1つとってもそうであった。解釈の深さ、どう読み解くか、意図などばらばらだった。文字のやりとりのアンケートだと見えにくいことがある。意図や解釈を、先ほど言われた一人一人と接していくということを通して、理解を深めていただきたい。

委員)

世界幸福度調査について、GDPといった経済的なことより社会的支援、社会的つながりとその人が健康であると認識できることがずっと幸福度に寄与しているという結果が出ている。そういう意味で、社会的つながりや支援とは、健康とはいったい何なのかを明らかにするのが大事だと思う。課題となるのは、社会的つながりや健康感が一体何なのか、あいまいなところ。新しい社会的つながりや新しい健康感に関与できることが松阪市にとって良い指標になるのではないか。「自然と健康になれるまち」目標は良いと思うが、具体的ではないと思う。今までの社会的つながり、今までの健康感を基準にしていると、幸福度につながらないのではないか。「自然と健康になれるまち」を皆さんの意見を取り入れながら具体化していくのが良いと思う。

市長)

ありがとうございます。コロナは単なる感染症というだけでなく社会が変わると言われている。社会的つながりは変わっていく。皆さまが集まるようなイベントは衰退していくだろう。それだけでなくサイレントマジョリティと言うくらいなので、これから市民の意見や総意はなかなか把握が難しくなる。先ほど申し上げたアンケートくらいしかない。

委員)

行政の言っている社会的つながりと市民の求めている社会的つながりの間には乖離があると思います。

市長)

その意味合いも分かる気がする。その乖離を埋めるところがこれからめざすべきところというのも良く分かる。住民自治協議会の話をする、地域と行政が今よりももう一歩進んだつながりを持っていかないと、これからの福祉行政が立ち行かないと考えており、国の言う重層的支援に令和3年から取り組む。例えば相談したい悩み事があるとき、行政の窓口がそれに対応していないという場合がある。そこに行政がもう一歩踏み込んで聞いていかないと問題が出てこない。そのためにより地域や学校などに入って行くことが必要。コミュニティセンター化はある面そこを目指しているが、まだ始まったばかり。理想はまだ先だが、地域と行政がともに住みよい地域づくりをしていくというのはめざすべきところ

る。委員の言われる行政と市民の社会的つながりの差については大事な視点、これからさらに必要になると思う。

委員)

この総合計画はあらゆるジャンルが網羅され簡潔にまとめられている。「主な取組」で新しい事業の New! マークや「市民ができること」が書いてあるのは市民参画を意識されて良いと思う。気になったところは、合併してから面積が大きくなり、人口密度にしても地点で大きく違い、地理的な違いが大きくなったにも関わらず、施策は統一的、画一的に書かれているため、自分たちの地域がどういう施策がされるのかが分かりにくいと思う。例えば P77 津波避難タワーは海岸沿いでおそらく山間部ではピンとこない。P91 公共下水道は中心市街地、水洗化は山間部などが対象であるが一緒に記述されている。施策によっては各地域に沿った地域別の記述も検討してはどうか。市民がより身近なものとして感じ取れる、親しみが持てる、理解できる計画となるのではないか。計画は市民の目に触れることが少ないので、市の出前講座など公民館の講座で総合計画を説明するなど、積極的に広報するも良いのではないか。

委員)

空き家について。空き家バンクが何十件と言う成果が出ているのは良いと思うが、人口がどんどん減ってくる中で、空き家が存在することによって地域コミュニティ維持が難しくなってくると思うが、それについて市長はどのように考えていますか。

市長)

市の組織で平成 30 年に空家係を置いた。最初に取り組んだのは、通学路で家が壊れかかっているなど緊急性の高い数十か所の対応。やっと今、空家バンクは中山間地域、それ以外、特に中心市街地について、不動産協会と協定を結んで対応をしていく予定。空き家があることで地域にとっては迷惑となるが、まちなかの空き家はなくなることで有効活用できる。全国的にめざしているコンパクトシティ、居住優先地域に集約させていくなど、それなりのインセンティブ政策、ここへ来てもらったらちょっと上乘せするなど、空き家を無くしてそこへ人が来てくれるようなことを考えている。担当者たちは、はじめ緊急性の高い箇所の対策だけで手一杯であったが、ようやく特定空家の抽出が始まり、最終的には行政代執行できる体制にしていくことをめざしている。一方で土地利用できる空き家に関しては、土地利用していこうとしている。なぜかという、一度空き家の全戸調査を行ったところ約 3500 件あり、所有者全員にアンケートをとったら、行政が介在して空家処分を手伝ってくれたら解体したい、という人が 6 割おり、昔住んでいた思い出のある家で、全く知らない不動産業の人にいきなり頼めない、という面があった。そのため現在のよう形で進めている。



委員)

固定資産税では住居が建っている方が低い税額となる。ここを変えて、例えば就活する方に市から補助金を出すなど、有利になるようにすることでリノベーションみたいなことができないかと思う。三井高利生誕 400 年についてもぜひ頑張っていたきたい。

委員)

総合計画は見る機会がないというのは確かにある。市民が意見を言える簡単な機会やツールがあるととても良い。コロナでつながりが分断されているんな場が消滅しつつあるというなかで、みなさんの動き方の制限もあり、いかに web のツールがあっても、コミュニケーション手段としては良いが広がりがでないことが問題。委員が言われた数値で計れないものも大事だという点は経済も同じ。経済は数字のかたまりだが、その数字で悩んでいる人は非常に多く、ほぼ 1 年経ち、影響が大きい方やそうでない方がいろいろおみえになるなか、みなさんいろんなことを模索しているが、切り札、回答は出ない。そのなかで感じたのは産業支援センターのことを知らないということ。1~2 割くらいしか産業支援センターのことを知らない。雇用の 7 割を占めている中小企業を守るにはもっと強力で広報していくべきと感じる。県の緊急警戒宣言が出ているがここからが大事。継続的な支援、お金の給付のような直接的支援も大事だが、産業支援センターの例のように情報を取りにいかないといけなのではなく、個人では難しくとも行政ができるという部分に力を発揮してほしい。

コロナワクチンについて、うたないという人が周りに多いように思うが大丈夫かと心配している。

市長)

今度始めるセミナーがある。雇用調整助成金は、休業した時にスタッフ一日あたり 15000 円もらえるが、もらっていない職種や会社がかなりある。確かに申請が面倒。もう一度基本的なこういう制度をしっかりと説明して、雇用を守ってもらおうということで、2 月に産業支援センターで開く予定にした。私たちも何ができるんだろうと悩んだところがあり、本当に雇用調整助成金をもらっているのか、飲食業でも LINE を学んで常連さんだけでも LINE でつなぎとめてもらうなど、そんなところから始めないと無理と感じた。緊急警戒宣言が出てから外食店にはお客さんがほとんどいない。お金の給付も一時のことであり、何か継続して取り組んでもらえるようなものをすべき。今度は動画を使って PR していこうという講習会もやる。ただ商工会議所の非会員のところにはなかなか届かない。産業支援センターも発信はしているが、ホームページでも出しているがなかなか見に行ってくれない。産業支援センターの認知度が低いというのも改めて思う。ぜひ雇用を支える意味で事業主が少し気にしていただけるような取り組みをしていきたい。やるべきことをやっていくということ。

コロナワクチンについては実際どれだけの人がワクチンをうってくれるのか分からないが、体制を整えておく必要がある。実際は全国的な報道の役割も大きいと考える。コールセンターで予約を受ける形。ワクチンを無駄にしないためにも予約どおり接種してもらいたい。ある程度の数の人にワクチン接種していただかないとおさまらないと思うので努力していきたい。

委員)

2点ほどあります。数値目標についてはどれくらいのレベルのものを目標に掲げているのか。達成度できなかつた場合の検証のこともあるので聞きたい。駅周辺の開発についてはどのような状況か、やはり松阪の玄関口としてのイメージがある。

市長)

令和元年の現状値と令和5年度の目標を掲載しており、低すぎず高すぎない目標を掲げている。数値目標に関しては毎年4月の各部局長の執行宣言においてどこまで達成できているのかを評価している。総合計画の数値目標以外に各事業にも数値目標を設けてあり、どこまで達成できているのかを5段階評価して部局長の評価につなげている。それなりに精査された数値となっている。

駅周辺については少しずつ進んでいる。基本構想が1年前にできた。今年度は市場動向調査として、基本構想について具体的に計画が進められるかいろんな企業体に調査をしている。この手のものは結構時間はかかる。計画はあっても開発業者ができるかどうかはまた別であるため調査を行っているところ。

委員)

市民から見ると駅周辺の情報が全く伝わってきていない。情報があるなら少しでも出してもらえる方が良い。また若者が集える場所をお願いしたい。

住民自治協議会について、市民から見ると、市が市民に対して負担を強いているように受け取れることが往々にしてある。市も言い方であったり、企画の出し方をもう少し考えてから出した方が良い。市民の側からはそう捉えられることもある。

歴史や文化に携わるものとして一番気になるところに、市の人材育成がある。庁内の異動があるのは分かるが各分野にプロフェッショナルが居てほしい。

基本計画に書いてあることができるだけ実現すると良いと思っています。

市長)

駅周辺について、基本構想で一番多かったのは「集える場」「憩いの場」という意見。そこから外れるようなものを作るつもりはありません。人を呼び込むようにぎわいの場づくりになればと思っている。

市民からみた“やらされ感”の話だが、市としても気をつけているつもりだが、私どもも改めて市民に対して、特にまちづくりに関わっていただいている方々に対して、気を付けていきたいと思う。

今の人事システムは区別しておらず、役所はどうしても配置転換が必要だが、個人個人でいずれ得意分野、不得意分野ははっきりしていくので、最近ではゼネラリスト、スペシャリストをもう少し鮮明に分けて行く必要があるのかなと思っている。おっしゃるとおりかと思う。

委員)

できるか分からないが、人員配置について希望をとって専門分野に就いてもらうというのはどうか。

市長)

実は毎年異動希望調書というのがあり希望を書くようになっている。ただ、ややこしいのは本人が行きたいところとその人に合うところが違うかもしれない。そこが人事評価の難しいところで、必ずしも一致しないというところはある。

委員)

市民に指導できるような人材育成のためのしくみづくりをお願いしたい。

市長)

やりたい仕事ができるような環境づくりは大事と感じている。

委員)

住民自治協議会について、子どもが作る住民自治協議会というのもまちへの親近感がわき良いと思う。高齢者の方が何らかの形で参加できるものもあって良い。コロナ禍でなかなか参加できず、人同士のつながりが薄れていくなかで、民生委員さんが一人暮らしの高齢者の対応でいっぱいになってしまっているとのことだが、その民生委員を補助する人を配置するなどが必要ではないか。具体的に動く方のやらされ感がないような意識改革が必要と思う。

コロナのPCR検査についてはどうなっているのか教えていただきたい。

市長)

PCR検査について、無症状の方は週2回診療しているところへ行くことが多い。結果はおよそ当日か翌日に出る。発熱されている方はその日に検査をし、当日か翌日に結果が出る。それらは全て保健所をとおり、保健所の指示でPCRセンターへ行ってくださいなどのやり取りを行っている。個人で検査キットを取り寄せて陽性とわかる方もいる。心配して

いるのは学校関係で、県内でも高校でクラスターになっているところがある。また病院や介護施設はクラスター化しやすい傾向があるため、そうしたところはいち早く検査体制を敷かれているという状況です。

委員)

自分で調べることが困難な方への周知が大事と思う。子どもの悩みにしても、産業支援センターにしても、何らかの知らせる方法が必要。よくコンビニにシールが貼ってあるなどちょっとしたことでも良いと思う。

委員)

プロフェッショナルの話で、福祉分野でも継続して担当するプロフェッショナルをお願いしたい。

また今年は丑年で、松阪市としては“稼ぎ年”。首都圏での情報発信を強化しては。桑名市はポニーキャニオンのコラボレーションで首都圏でかなり情報発信していたり、沼津市は深海魚のゼリーを作ったり、面白く発信している。松阪市もエンターテインメントに乗っかることのできる要素が多いので、華々しくPRしてはどうか。P111 地方創生総合戦略にも“稼ぐ地域をつくる”とある。ある商品アイデアがあったら、市内の企業とコラボレーションして商品開発し、それが都会で注目を浴びる例もあり、非常に面白い動きになると思う。例えばそうして松阪の物産が増えていったら、松阪市行政のホームページでオンラインショップを開設し売るといったのはどうか。

いまコロナの時代に思うのは、高齢者や子育て中のお母さんなどは就業条件に合いにくいので外に出にくい。製造業における“内職”という昔ながらの働き方は、家でできることで今のコロナの時代に合っているのではないかと思う。一人一人が稼ぐ地域になるのではないか。

委員)

首都圏でのPRなどできることについてご協力させていただきます。

委員)

総合計画については、いつの間にか書架に入ったままになることが良くある。管理職職員以外の職員は見る機会が少ないため、研修の場で総合計画を眺めながら、行政全体を理解するような職員を育成しては。日ごろ窓口業務では総合計画のどこにあたる業務なのか理解できないと思うので有用と思う。

市長)

良い話と思う。10年目の研修で、3か所くらいの部署を経験し、ある程度分かった職員が市全体のことを知ることは良いと思う。

会長)

ほかに何かないですか。では終わらせていただきます。事務局のほうに進行をお返しします。ありがとうございます。

事務局)

ありがとうございました。では最後に次回の開催についてご連絡をさせていただきます。次回第22回の日程については諸事情により現在調整中でございますので、決まり次第ご案内させていただきます。以上をもちまして、第21回松阪市政推進会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

《午後5時00分終了》